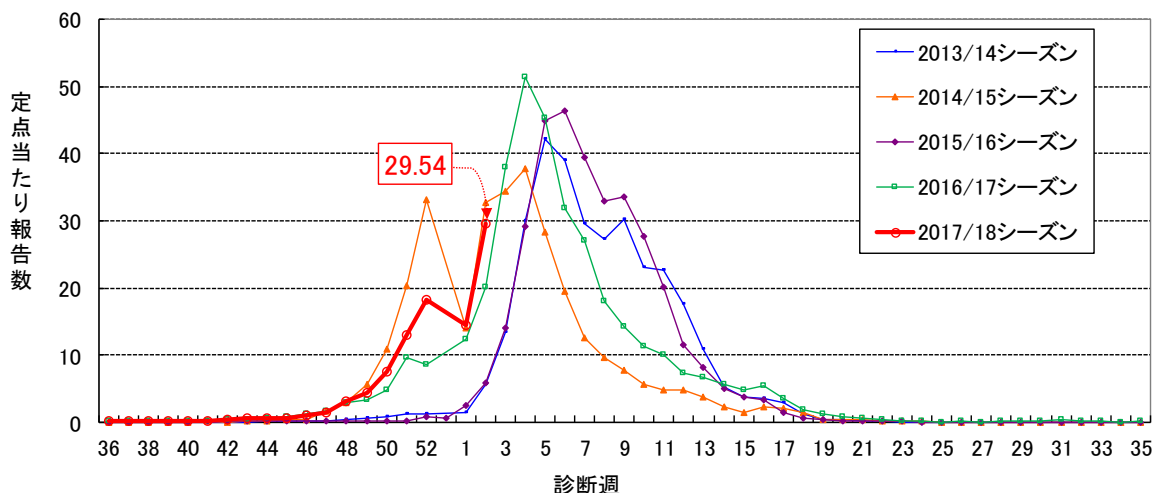


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

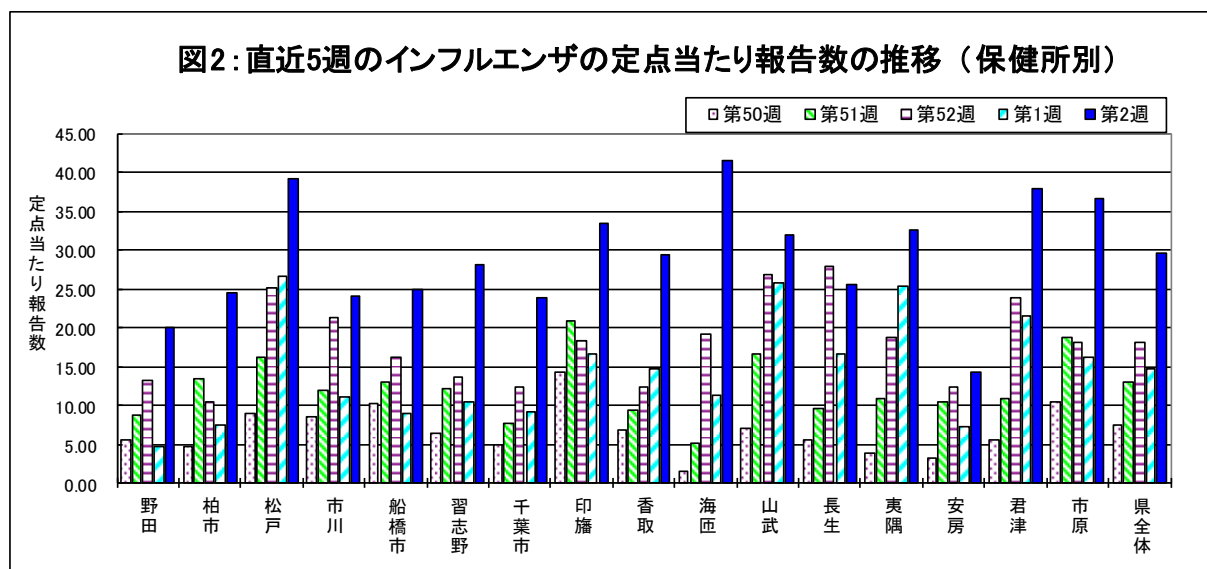
2018年第2週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は29.54（人）となった（図1）。

図1：2013～2018年第2週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



県内16保健所管内（千葉市、船橋市および柏市含む）全てにおいて前週より報告が増加し、県レベルでの定点当たり報告数（29.54）を超える保健所管内は、報告の多い順に海匝（41.57）、松戸（39.08）、君津（38.00）、市原（36.73）、印旛（33.33）、夷隅（32.60）、山武（31.89）であった（図2）。

図2：直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移（保健所別）



年齢群別報告割合では、5～9歳（21.5%、前週16.0%）、0～4歳（16.1%、前週15.1%）、10～14歳（12.7%、前週8.8%）が多かった。第2週の県内の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果6,078例の報告は、A型2,422例（39.8%）、B型3,634例（59.8%）、A and B型3例（0.0%）、A or B型19例（0.3%）であった。A型の報告数も前々週、前週と比較し増加しているが、B型の報告がより増加し、例年より早期にB型が過半となった。また第2週時点で県内16保健所管内すべてにおいてB型の割合がA型を上回っている。

基幹定点(9 医療機関)からのインフルエンザ入院サーベイランスの報告においては、第2週に67例の報告があり、前週35例より増加した。年齢群別では80歳以上21例、70代17例、60代10例、50代6例、40代2例、30代1例、20代2例、10代0例、5～9歳2例、1～4歳6例、1歳未満0例となっている。現行の入院サーベイランスは2011年9月より実施されており、週当たりの報告数67例は過去2番目に多い数字であり今後の推移が注視される。入院サーベイランスにおける報告数はその時の定点当たり報告数やそのシーズンに流行しているウイルス株との関連が推察される(図3)。

